

新善光寺 寺報 北 縁

2024年1月 Vol. 54

ほくえん



特集

「松尾師に聞く五重相伝」

令和6年 年頭所感

お檀家の皆さまにおかれましては、清々しい新年をお迎えのことと存じ上げます。日頃より当山の護持運営にこころごしを頂き、感謝申し上げます。

1月1日に発生しました能登半島地震により尊い命を奪われた方々のご冥福をお祈りし、また被災された方々、関係者の皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

さて、本年は辰年であります。龍は、雨をもたらす瑞獣として寺社仏閣によく彫刻などがされます。雨は渇いた大地を潤し、生命を育み大いなる恵みを与えてくれます。ここ数年、私たちは疫病の難により、こころもからだも渇いてしまっているように感じます。その我々に慈雨がそそぐような年になることを祈念します。

また、今年は浄土宗にとりまして、開宗850年のご勝縁の年です。お念仏という水を我が心にそそぎ、いつの日かお浄土に自身の花を咲かせるべく、益々お念仏申せる日暮らしを送りたいものです。

住職 太田 眞琴



前列左より

まつ おいつし
松尾一志
(88歳)

おお た しんかい
太田真海
(39歳)(副住職)

おお た しんきん
太田眞琴
(75歳)(住職)

おお た こうけん
太田光顯
(42歳)(清璋寺住職)

そうかわしんしょう
宗川信章
(59歳)

後列左より たちばなしゅんぶ 立花俊輔(43歳) さ こうしょう 佐古康祥(37歳)

訃 報

長きにわたり新善光寺の総代をつとめていただいていた杉野目浩様が昨年12月4日に往生されました。

杉野目様は北海道大学名誉教授であられ、化学の研究にいそしまれ、数多くのご功績を残されております。

また、社会福祉法人慈啓会後援会会長もつとめていただいております。新善光寺並びに慈啓会の運営にとともご理解があり、新善光寺の歴史もよくご存じであり、まだまだお聞きしたいことがありましたので、残念でなりません。

数多くのご功績とご遺徳に改めて感謝申し上げます。

合掌



お地蔵さんを安置しました

前号で紹介しました南28条西11丁目より遷座されたお地蔵さんですが、このたび12月に中庭を整備し無事に安置を終えました。中庭を大規模に剪定し、土台をしっかりと設置し、その上に乗っていただきました。中庭には天然石慈母観音像や馬頭観音の石碑などもあり、また四季折々の花を感じることができる場所となっております。雪解けの後はぜひともお地蔵さんにお参りしていただければ幸いです。



五重相伝について③

従前より周知してきました浄土宗の奥義を伝える五重相伝について、近い将来に開催予定となっておりますが、来年6月の開催に向けて進んでおります。

そこで今回は過去2回（昭和28年・昭和56年）の五重相伝を僧侶側から経験している松尾一志師にインタビューさせていただきました。松尾さんの知る新善光寺の歴史の中における五重相伝とは、どんなものだったのでしょうか？

——おそらく昭和28年の五重相伝を経験されていてご存命の方は松尾さんしかいらっしゃらないかと思います。この五重相伝が開催された背景を教えてくださいませんか。

これはまず骨仏（ご遺骨で作る仏様）さんから始まっています。昭和21年の大火事で納骨堂が被災し、預かっていたお骨が散り散りになってしまいました。それでは粗末になるからということで骨仏を作ったのです。希望される方も入っていますので、全部で5千体のご遺骨が入っているはずですが、昭和39年の本堂の完成まで、機運を上げるため骨仏の次にやったのが五重相伝です。

——参加された方は多かったのですか？

結構来ていましたよ。仮の建物ですから狭いところでしたけど。

——そこで皆寝泊まりされて？

通う方もいましたよ。そう沢山ではないけれど遠い方は泊まったりされていましたね。関係ない知らない人が布団の中に入って寝ていたり（笑）、えらい足が長いなあと思ったら、全然知らない人でね（笑）。

——松尾さんはその五重相伝の時はどんなことをされていたのですか？

いやあ、まだ小僧っ子だもん、全然。

勤戒師として来られたのが椎尾弁匠師だったかな。頭の良い方でした。

——参加で来ていた方の印象はいかがでしたか？

一生懸命よ、皆さん。やはり焼けた（火事）ということにね。色々と思いがあつたのかなど。真面目な方が多かったという印象です。そのあとはやはり信仰心が増してきたような気がしますよ。

——火事は昭和21年？

そう昭和21年の5月、花祭りの時にね。西本願寺の当番で皆そっちの方へ行っ





五重相伝の様子



左に見えるのが
骨仏です

ていてね。3代目住職の安富さんのお弟子の方が、煙が出ているということで、本堂からご本尊さんを担ぎ出して。両大師（善導大師・法然上人のお像）は戦時中ということもあり、慈啓会へ疎開していました。

——火事の後にはどんな状態だったのですか？

もう酷かったよ。境内に焼けた柱が残って、それを切って薪にしていましたよ。

仮本堂が玄関まで縦長い感じで、納骨堂も本堂の裏側に続いていて、私なんか寝るとこ無いから納骨堂で寝ていましたよ（笑）。とにかく寒くて狭いところで大変な時代でした。

ところで五重相伝はいつやるのですか？

——令和7年（2025年）の予定です。大阪の大通寺住職が強く開催を勧めてくるのもあって。

生きてるかな（笑）。

——大丈夫です、ぜひお元気で参加してください。

この後2回目の五重相伝についても聞きましたが、紙面の都合で次号に載せたいと思います。松尾さんのお話は本当に貴重で、その当時の背景を知ることができました。

この五重相伝は南無阿弥陀仏のお念仏の真髓を心と体で体得し、味わっていただく「修行」であり浄土宗における最高の法要です。開催方法も含めてより多くの方に参加いただけるように、そして無理なく受けやすいように工夫を凝らしていこうと思っております。

大阪から五重相伝のやり方を熟知しているお坊さんもお呼びする予定で、来年6月の開催に向けて準備を進めていますので、ぜひともご参加いただければ幸いです。

シリーズ 仏事のおはなし

仏さまのおはなし ⑧

令和6年の歳が明けました。皆さん新年おめでとうございます。本誌は季刊ではありませんが、本年も皆さんに仏教に対し興味をもっていただくべく頑張っていきたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

さて、仏さまのおはなしですが、前回に引き続き、浄土宗のご本尊であります「阿弥陀如来（仏）」さまのお話をしていきたいと思います。

前は、阿弥陀如来はどんな仏さまであるのか。また、皆さんが日々お参りされている阿弥陀如来像について、さらには阿弥陀さまがどのようにして「仏」となられたのかについてお話をしました。

今回はその続き、「成道（お悟りをひらくこと）」のため、立てられた「誓願」についてです。

◆阿弥陀如来の誓願

薬師如来の回でも触れましたが、如来さまは自身の「誓願」を成就することで成仏しいわゆる「仏さま」となります。前号でもふれたように、法蔵菩薩は衆生（人々）を救うため、四十八の誓いたてられ、それを全て成就することで「阿弥陀如来」となられました。

阿弥陀如来の誓願は、浄土宗所依經典のひとつ「無量寿経」に説かれています。その数は四十八あり、これらの誓願をすべて成就しなければ、自身は仏とはならないと誓ったものです。紙面の都合上全てをご紹介しますが、その中でもっと大切な誓願と言われる第十八願を下記にご紹介します。

無量誦経卷上に記される阿弥陀如来の四十八願、その第十八番目の誓願が以下のものになります。

設我得仏 十方衆生 至心信樂 欲生我國 乃至十念 若不生者 不取正覺 唯除五逆 誹謗正法

【書き下し】

設し我仏を得たんに 十方の衆生 至心に信樂して 我が国に生ぜん^{しんぎょう}と欲し 乃至十念^{ないしじゅうねん}せんに 若し生ぜずんば 正覺を取らじ ただ五逆と誹謗正法とをば除く

【意訳】

あらゆる世界の衆生が、真実のころをもつて深く信じて極樂への往生を願い、十遍南無阿弥陀仏と称えたにもかかわらず、往生しなければ私は悟りの位へ到りません。ただし、五逆罪（仏教における五つの重罪）を犯した者、仏法（仏の教え）を謗った者はその限りではない。

この誓願は「念仏往生願」といい、我が浄土宗では最も大切な経説とされています。宗祖法然上人はこの誓願を「本願中之王」と記されていることから「王本願」と呼ばれ、「お念仏を称えるもの皆極樂に生まれる」という教えの根幹になっています。生きとし生けるものすべてを救済する阿弥陀如来の本願は慈悲に満ちているものと言えます。念仏信者としては是非覚えておきたい経文です。

◆著名な阿弥陀如来のお像

さて、阿弥陀如来はこの日本では最も有名な仏さまのおひとりです。それ故多くのお寺のご本尊として、また有名な阿弥陀堂があるお寺もあります。その一部をご紹介します。

①「日本三大阿弥陀堂」と呼ばれる、阿弥陀如来を奉るお堂があるお寺があります。

・平泉 中尊寺 金色堂（国宝 岩手県 天台宗）

奥州藤原氏の初代の藤原清衡が1124年に当時の最高技術をもって建立されたお堂で、極楽浄土の様相を具現化している。ご本尊は腹前で定印を結ぶ阿弥陀如来坐像（平安時代作）。なお、本年1月23日～4月14日まで、東京国立博物館において「建立900年特別展『中尊寺金色堂』」が開催され、弥陀三尊を含む11体の国宝の仏像が展示される。

・宇治 平等院 鳳凰堂（国宝 京都府 単立（管理：浄土宗・天台宗））

1053年に建立された阿弥陀堂で、もとは「阿弥陀堂」「御堂」などの呼称であったが、後世に「鳳凰堂」と呼ばれるようになる。鳳凰堂とその周囲の浄土式庭園は極楽浄土と阿弥陀如来を観想するために造られたという説が定説である。本尊「国宝 阿弥陀如来坐像」は平安時代後期に活躍した仏師「定朝」の現存唯一の作品である。

・豊後高田 富貴寺 大堂（国宝 大分県 天台宗）

富貴寺は平安時代に宇佐神宮の氏寺として開かれた寺院。大堂（阿弥陀堂）は現存する九州最古の木造建築物である。本尊の「木造阿弥陀如来坐像」は国の重要文化財に指定され、伝説によると六郷満山寺院（国東半島一帯にある仁聞関連の寺院の総称）を開基したとされる仁聞菩薩の手によって970丈の樫の巨木から造られたとされる。

②鎌倉の大仏で知られる仏さまも阿弥陀如来です。

・鎌倉 高德院 銅造阿弥陀如来坐像（国宝 神奈川県 浄土宗）

鎌倉と言えば大仏といわれるほど有名な阿弥陀如来坐像。江戸時代は「奈良の大仏（東大寺）」「京の大仏（方広寺）」と並び、日本三大仏と称された。造立が開始されたのは1252年に浄光という僧侶の勧進によるものとされる。当初は大仏殿のなかに安置されていたものの、大風や地震により仏殿の倒壊にいたる。座高11.3m、重量121tの仏像はほぼ造立当初の尊容を保っている。

③当寺に馴染みの深いあのお寺のご本尊も阿弥陀さまです。

・長野 善光寺 一光三尊阿弥陀如来（前立本尊）

（重要文化財 長野県 単立（管理：浄土宗・天台宗））

ご本尊である「一光三尊阿弥陀如来像」は「絶対秘仏」であり、残念ながら拝観することは出来ない。鎌倉時代に御身代わりとしてこの「前立本尊」が造立された。その名の通り、「一つの光背に阿弥陀如来・観音菩薩・勢至菩薩が配置された仏像様式」で、普段は御宝庫に安置されているが、七年に一度の御開帳の時だけ、特別にお姿を拝むことが叶う。

その他、浄土宗各ご本山にも素晴らしい尊容の阿弥陀さまがいらっしゃいます。是非お参りに行ってみてください。

高野山にお参りして

昨年こぞの秋、両親とともに和歌山県こうやさん高野山にお参りしてきました。高野山の奥の院だいしでは、お大師さまこと弘法大師こうぼうだいし空海が召し上がるお食事を、雨の日も風の日も欠かすことなく毎日2回お供えされています。これは、弘法大師が今もなお生きておられ、生きとし生けるものすべてが安穏な境地にいたるまで、祈ってくださっているという信心からくる尊い行いです。

弘法大師は、今から1250年程前に四国の讃岐に生まれ、62歳の時、高野山にて入定にゅうじょうしました。入定から86年後の延喜21年(921)、観賢かんげんというお坊さんが、帝みかどより賜った新しい御衣をたずさえて、弘法大師空海のおられる石室に入りました。すると、弘法大師の髪は一尺(約30cm)ばかりのびていて、その髪を観賢さんが剃りました。また、弘法大師が持っていた水精すいしょうの念珠ねんじゆの緒おが朽ちてばらばらになっていたので、それを直し、再び大師の手に懸けたのでした。新しい御衣に着替え、剃髪してきれいになったお大師さまに名残惜しくも別れを告げ、観賢さんは石室の扉を閉めたのでした。その後、その室を開けた者はいないと『今昔物語集』こんじやくものがたりしゆ巻11第25話では伝えられています。

ところで、河合隼雄氏は、『今昔物語集』の内容について、内と外、自と他を区別しないまま、それによって把握された現実を忠実に書きとめていると指摘しています。この指摘に思いをめぐらすと、“私が〇〇する”“あなたに〇〇される”という主と客が明確に別れた構図とは異なる世界観のあることに気づきます。仏法を学ぶということは、私が仏法を学ぶのではなく、仏法の中に私を学ぶということだと感じます。

弘法大師のおられる石室に入ったことはなくとも、『今昔物語集』を拝読すると、まるで自分がお大師さまと対面しているかのような妙なりアリティーを感じます。それは、現代人が失いつつある何か大切なものがこの物語集に残り香としてあるからなのでしょう。そんなことを感じた今回の旅でした。

〈文：立花 俊輔〉



金剛峯寺根本大塔



奥の院に建つ法然上人の供養塔

浄土宗の総・大本山について

清浄華院(しょうじょうけいん・京都)

京都御所の東に位置し、なかなか読み方が難しいですが、略して「浄華院(じょうけいん)」や「浄山(じょうざん)」とも呼ぶこともあります。

成り立ちが興味深く、元々は平安時代に時の天皇である清和天皇の願いにより天台宗の慈覚大師円仁が宮中(天皇の住まい)に道場として建てられたのが始まりです。

そして「清らかな蓮の“花”のごとく“清浄”な修行道場」といった意味を込め清浄華院と名付けられたと伝わっています。

そのあと、後白河法皇が法然上人を宮中に呼び教えを請い、その教えに大変感動し、清浄華院を法然上人に下賜しました。以後、浄土宗に改められ念仏道場としての道を歩んでいきます。そのような流れもあり、皇室ゆかりの寺院としても知られ建物の各所には菊花紋があしらわれています。

なお、敷地内に佛教大学の学寮(浄山道場)があり、新善光寺副住職も在籍しておりましたが、僧侶を目指す者が日夜研鑽を積んでおります。

また、豆大福で有名な「出町ふたば」が近くにあったり、京都らしいおしゃれなお店も点在しています。

長い歴史の中で動乱や災害に巻き込まれ移転もしておりますが、常に皇室や京の人々と共に歩んできた寺院です。京都に行かれる際は是非お参りいただければと思います。

タクシーで行かれる際は“^{ろざんじ}廬山寺(紫式部が源氏物語を記された場所にたつお寺)の横のお寺へ”とお伝えになるとスムーズに着くかと思えます。

清浄華院

京都府伏見区寺町通広小路上る北之辺町 395



大殿



大殿の中で読経中の学生

—お檀家タウンページ—

書籍紹介

『心の庭の植物図鑑』『想いの種』 小林重予(1957-2017)

今までは、お店や会社を訪問していましたが、今回は書籍を紹介したいと思います。

小林重予さんは造形作家で、国内外で多くの活躍をされてきました。STV ニュース情報センター（中央区北1条西8丁目1-1）の壁面の作品やJRタワー札幌ステラプレイスのセンター2階の作品はご覧になった方もおられるかと思ひます。



「風に旅する想いの種」(ステラプレイス2階)

病気により立体作品の制作活動をおこなうことができなくなりましたが、日常のできごとを絵やコラージュでつづる「日記画」を描かれていました。

「桃李もの言わざれども下自ら蹊を成す。そんな人になりたいと思ひ生活していました。野外アートや国内外での個展、舞台美術や壁画の仕事など多彩に現代美術の発表を美術館や文学館などで発表してきました。アート表現が好きでしたが難病になり一切の活動をやめました。これからは何ができるのだろう。社会と、どうつながりながら、生を全うできるのか考えています。治らない病になって知ることもあるのでは、とも思っています。」

この文章は2015年に生前戒名を申し込まれた時に添えられたものです。

『心の庭の植物図鑑』は2016年10月より北海道新聞の夕刊で連載を始められました。植物にちなむ文字を含む言葉を選んで心の動きを観察し、見出し語を入れた絵と、その絵に添えられた文を連載され、本は遺作を含めた掲載になっております。

色鮮やかで、心の中の感情が動かされる絵で、また文章も皮肉が効いていて、合わせて読むと自分の内面を見透かされたような気持ちが湧いてきます。

『想いの種』は日記画やブログや個展のチラシ、新聞、メールなどに書いた文章、さまざまな形でのこされた絵やスケッチを一冊の本にまとめたものです。

小林さんの感情豊かな“想いの種”が心に舞い落ちてくるような内容になっています。



「過ぎ去った昨日は彩り豊かな絵空事となり、真っ白な今日の日記画へと繋がっています。日々、予測不能な出来事を受け入れながら庭を耕し、花を愛で一粒でも多くの種を育てたいものです。」(冒頭文章より抜粋)

小林さんが蒔いてきた種は空を飛んで様々なところで育ち、そしてまた芽を出し、実を結び、またそれをずっとずっと繰り返していくのだと信じております。

ミラーを設置しました

新善光寺の入り口（門柱）にミラーを設置しました。車で出入りする際は歩行者や自転車などが急に出てくることもあり、危険な場合もありました。その解消に左右の門柱両方にミラーを設置いたしました。歩行者や自転車の接近を事前に確認できるようになりましたので、安全になったかと思えます。車でお越しの際は是非ご活用ください。



今後の予定

2月27日（火）13時 涅槃会

涅槃とはお釈迦様の入滅をあらわします。その様子の涅槃像をお祀りし、ご遺徳を偲ぶ法要です。



3月20日（水・祝）10時 春彼岸法要

先にお浄土の世界へ往かれましたご家族・ご先祖様など大切な方をご供養する法要です。着席形式にするか、着席せずにご焼香していただいでそのままお帰りいただく、この数年でおこなっている形式にするか、まだ未定です。皆様のご意見も伺いながら決めていこうと思います。のちほどお葉書やホームページで正式な時間や形式をお知らせします。



写経の案内

2月24日（土）14時開始 仏教講座「写経」

お手本に半紙をのせてそのままなぞっていただく形式となっております。初めての方でもお気軽にご参加ください。お檀家様に限らずどなたでも参加できますのでご友人を誘って来ていただいても大丈夫です。

事前予約や道具は不要で参加費は500円、お茶と月替わりのお菓子が付いてきます。



《清璋寺だより》

新年の1月3日に恒例の修正会及び祈願法要をおこないました。当日は多くのお参りの方が来られ一緒にお念仏をとなえることができました。

終了後にはお申込いただいた方にお札をお渡ししました。

災害や事故など不安定な世の中ではありますが、皆様が穏やかに過ごせることを願っております。



《納骨堂のご案内》

昨年増設した納骨堂ですが、大変好評を得ております。見学は可能ですので、どうぞご連絡いただければと思います。



西縁山 清璋寺 札幌市手稲区西宮の沢5条1丁目 19-35

TEL 011-668-5110

慈啓会から

慈啓会老人保健施設 デイケアサービス

当法人には日帰りで利用出来る介護保険サービスに「慈啓会デイサービス・慈啓会稲寿園デイサービス・慈啓会老人保健施設デイケア」の3施設があります。デイサービスとは、介護を必要とする人が自宅から施設に通い、日帰りで食事や入浴・機能訓練などを受けられる介護保険サービスのことで「通所介護」と呼びます。一方、デイサービスと似た名称の「デイケア」があります。デイケアの正式名称は「通所リハビリテーション」と言われ、医師による診察や健康管理、個々に専門的なリハビリが提供される点が特徴です。どちらも介護保険法による通所サービスです。名称が似ているため混同されることがありますが、デイケアは病院や介護老人保健施設に併設していることが多いです。

当施設のデイケアには「理学療法士・作業療法士・言語聴覚士」のセラピストがおり、身体機能訓練のほか、生活動作訓練・口腔機能訓練なども行われ、各々の専門性を生かしたプログラムを提供しています。また、自立した生活が送れるように、入浴・食事・レクリエーション・健康管理なども介護職員や看護師によって、手厚くサポートしております。コロナ感染対策もあり、なかなかレクリエーションも出来ませんでしたが、去年は春にお花見と秋に紅葉狩りの外出レクも実施しました。外出レクには必ずリハビリの専門職が同行し、普段あまり見る事のない屋外での歩行を含めた、色々な動作の確認をしているのも慈啓会デイケアの特徴と言えます。その他に、毎月発行している「デイケア便り」も行事の写真や職員紹介なども掲載し、ご利用者様やご家族からも好評を得ています。

さらに、新たな取り組みとして、各事業所のケアマネジャーから問合があった「短時間リハビリ」を始めました。午後の13:30から開始で、当初は火曜日・水曜日・木曜日の3日間限定でしたが要望が多く、現在は月曜日から金曜日の午後で対応させて頂いております。体験利用も随時受け付けておりますので、興味のある方はお気軽にお問い合わせください。



短時間デイケアのパンフレット



春の外出レク



理学療法士の訓練様子

【お問合せ】 慈啓会老人保健施設 電話：011-520-8085

札幌慈啓会総合相談室のご案内 ☎️ 0120-83-8291 お電話受付時間/8:45～17:00(土日・祝は除く)
E-mail info-jk@sapporojikeikai.or.jp
専門スタッフが保健・医療・福祉などのご相談に応じます。 相談無料

当山のお仏像を紹介します① ^{あ み だ に よ ら い ざ ぞ う} 阿弥陀如来座像 (平安時代作)

ご法事や婦人会の定例法要などをおつとめするお部屋である光明の間に安置されているのが、この阿弥陀如来さまです。この如来さまは、京都の浄国寺（寺町高辻下ル）

からやってきました。札幌に来てからは、およそ60年。もう北の大地にも慣れた頃と存じます。このお像の歴史は古く、平安末期から鎌倉初期に造立されました。800年以上昔のことです。
「今^{いま}拜^{まが}む 古^{ふる}き仏^{ぶつ}の 受^うけ止^とめし 憂^{うれ}い悲^{かな}しみ
いくほどならん」



同封の年回忌表の言葉

お念佛からはじまる幸せ

お念仏とは、「南無^{なむあみだぶつ}阿弥陀^{あみだ}仏^{ぶつ}」と声に出して^{とな}称^なえ
ることです。お念仏は、呪文でも悪いことを除い
てくれる不思議な力を持った言葉でもありませ
ん。私たちが自身の有限性に思いを致したとき、
こんな私をそのままに受け止めてくださるお方^{かた}（如
来さま）がおられることに気づき、その如来さまを
お慕^{した}いし、その如来さまの御国^{みくに}である極楽浄土に
往くことを人生の最大の目的とすることが、お念仏
者の生き方です。お念仏をすることで、悩みや悲
しみが解消されるわけではありません。お念仏申
す日暮らしの中から、苦しみや悲しみを縁として、
本当の幸せが見えてくる機会を頂戴できるのです。



北縁 なんでも Q & A

いつもご質問、感想等、ご投稿いただきありがとうございます。

2020年より新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、昨年5月をもって感染5類相当となってから初めての新年となります。年末年始、ご家族ご親戚の集まりもできたご家庭も多くあると思いますが、引き続き感染症の対策はしっかりとやっていきたいものです。

このコーナーでは、引き続き皆様のご質問、ご意見を募集しております。

Q 最近、知人や親せきのお葬式に行く機会が増えて来ました。年齢的にそういう歳になったのかと感じます。仏教の場合にどこを見れば宗派がわかるか教えてください。またその宗派のことをある程度わかっていないと失礼にあたるかということも教えてください。

A コロナ禍に起因する影響ごとの一つに葬儀参列者の減数化があげられます。これは葬儀会場での蜜をさけることで感染予防対策の一環とするという考え方からですが、冒頭に記した通り昨年5月より感染症5類相当の措置がとられてより、式前焼香などの措置も大分減ってきています。

しかし、参列者の減数化の流れはコロナ前に戻る動きは鈍く、そういった意味では葬儀と言え、親族筋の葬儀への参列というのがほとんどであろうと思います。

さて、ご質問の件ですが、札幌圏での慣習事としてお答えいたします。

葬儀は亡き人とお別れをする儀式の場であり、その儀式のお作法を通じて個人を偲ぶ場でもあります。当然違う宗教、仏教であっても宗派の違う方が集う場です。したがって様々な宗教観、各宗教の作法に通じている方が集います。よって、社会通念上において逸脱した態度や服装でなければ失礼にあたることはありません。

また、仏教の場合、宗派によって変わった儀式の流れがあることはほぼありません（既成仏教による）。葬儀の流れは基本的に通夜（出棺前夜）→告別式（出棺式）と進み、各法要では勤行（読経）の中で参列者の焼香が行われます。焼香の際、その回数や作法などを気にされる方がいますが、これはおのおのの宗派でのお作法に準じていただければ結構です。特記があるとすれば、（浄土）真宗教団は火葬場より葬儀式場へ還骨してきた際の「お清め塩」を行わないといったところでしょうか。

宗派を確認する場合は、その勤行式で称える「唱名」が「南無阿弥陀仏」であれば浄土教系（浄土宗、真宗各派、天台宗）。「南無釈迦牟尼仏」であれば禅宗系（曹洞宗、臨済宗）。「南無大師遍照金剛」であれば真言宗系。「南無妙法蓮華経」であれば日蓮宗系となります。いずれもお勤め中にお唱えしますので聴聞して確認してみてください。

〈合同団体参拝旅行のご案内〉

今年には法然上人が浄土宗を開かれて850年の記念すべき年であります。それを記念して4月に総本山知恩院で大きな法要をおこないます。

新善光寺では旅行を計画しておりませんが、岩見沢の阿弥陀寺様では4月9日から3日間の団体参拝旅行を計画しており、もしご希望の方がおられれば一緒にいかがですか、というお誘いがありました。

ご興味のある方は、まずは新善光寺までお問い合わせください。

〈東京別院 霊源寺より〉

新善光寺の東京別院である霊源寺では関東近郊に住む方のご供養をとりおこなっております。このたび3月23日(土)11時より春彼岸法要をおこなうこととなりました。当日は新善光寺副住職も参加する予定です。



関東近郊にお住まいの方でご都合の合う方は是非ともお参りください。

東京別院霊源寺 検索

編集後記

今回もなんとか発行までこぎつけることができました。関係各所のご協力に感謝いたします。前々号から記事にしている五重相伝も開催が近づいてきていますので次号も特集を組む予定です。

今年は穏やかな年明けかなと思ったところ、震災や事故のニュースが流れてきました。報道を見ていると本当に心が痛みます。少しでも早く穏やかな日常を取り戻してほしいと願うばかりです。

(真海)

※新善光寺の日々の情報は各種SNSにて公開しております。
どうぞ、そちらもご覧ください。そしてこの「ほくえん」のご感想もお待ちしております。



ホームページ



YouTube

新善光寺寺報
Hokuen 54
北 縁

発行 / 2024年1月発行

発行責任者 / 新善光寺住職 太田真琴

〒064-0806 札幌市中央区南6条西1丁目 [TEL] 011-511-0262 [FAX] 011-511-4706

[ホームページ] <http://s-zenkoj.com> [Eメール] s-zenkoj@crux.ocn.ne.jp